

つながる すみだ人

私の好きな すみだ

今月の1枚

「スカイツリーまで飛んでいけ～！」

【撮影】牧野あゆみさん

本コーナーへの写真を随時募集しています。詳細は区HPをご覧ください。

【問合せ】広報広聴担当 ☎5608-6223



坂田直さん(東向島在住)

Q. 現在の活動を始めたきっかけは何ですか？

永井荷風の「ぼくとうきだん 遷東綺譚」が好きで、その舞台である東向島周辺で、和装の仕事がしたいと思ったことがきっかけです。

学生時代、ファッションデザイナーの高田賢三さんの花柄をモチーフにしたデザインに感銘を受け、その着想の原点が花街の女性の装いであることを知り、華やかな着物の世界に興味を持ちました。地元の福岡から上京して、2人の和裁の先生に師事し、様々な和裁の技術を学び

すみだを愛し、すみだで活躍する人をリレー形式で紹介する「つながる すみだ人」。お話を伺った方に次の方を紹介していただき、すみだを愛する人をつないでいきます。第61回は、着物を仕立てる「仕立直や」を営みながら、和装関連商品の販売やワークショップなどを行う「ワモノと雑貨キセカエ(向島1-17-12)」を運営する坂田直さんです。

Q. すみだでどのような活動をしていますか？

着物の仕立てのほか、和装関連商品の販売やワークショップ等を行っています。

着物の仕立ては、呉服屋や個人のお客さんから発注を受け、手縫いで仕上げています。今ではミシンで着物を縫うことも珍しくありませんが、私は昔ながらの手縫いにこだわっています。

新型コロナウイルス感染症が収束し始めた昨年頃から、海外からの修学旅行生向けの着物ワー

クショップがとても人気です。着物をほどこいて、和装小物などに作り替えます。着物は洋服と比べて端ぎれも少なく、ほどこけば長方形の生地に戻るため、リユースやアップサイクルがしやすい衣服です。日本では江戸時代の頃から続いているSDGsにつながる取組が、海外の皆さんに受け入れられ、とても嬉しいです。



▶向島にある店舗は黄色の看板が目印です。

◀海外からの修学旅行生の着物体験。自ら選んで初めて身に着ける日本の着物に皆さん自然と笑顔になります。



Q. 坂田さんは、すみだのどんなところが好きですか？

新しいモノと古いモノが混在しているところが好きです。東京スカイツリー® 周辺のような新しい町並みと、向島花街等に見られる古い町並み。大正・昭和の時代を懐かしみながら、新しい一歩を踏み出すことができる、そんな雰囲気がすみだにはあると思います。郷愁を持ちながらも、

新しく生まれ変わる街からたくさんのパワーをもらっているような気がします。

また、隅田川と荒川に挟まれている土地柄、橋が多くあり、どこを切り取っても絵になる、着物が似合う街であることも、写真と和装が好きなので私にとって大きな魅力の一つです。

次回登場してくださるのは・・・

東駒形にある割烹「おかみ きささけし 峰屋」で女将・刺身師として運営に携わる高澤瀬理奈さんです。
【問合せ】広報広聴担当 ☎5608-6223



夢

"こども まんなか すみだ"の実現に向けて

墨田区長

山本 亨

5月26日、キャンパスコモンにおいて、「こども まんなか すみだ」の取組を宣言するためのキックオフイベント「みんなであそぼう！こどもわくわくフェスティバル」を開催しました。このイベントは、子どもたちが様々な体験をして、楽しみながら学ぶことを第一に考え、企画したものです。

当日は、ステージでの和太鼓やバトン、フラダンス等のパフォーマンスが行われたほか、遊び体験コーナーや飲食コーナーも設けられ、多くの皆さんが親子で楽しんでいる様子を見て、大変嬉しく思いました。

本区が考える「こども まんなか」とは、「子どもや子育て世帯の意見・視点を意識し、

笑顔あふれる、子どもの最善の利益を優先するまちを実現していくこと」です。こうした社会の実現に向けて、今年度、「墨田区こども計画(仮称)」や「墨田区子ども基本条例(仮称)」の策定を進めていく予定です。そこで、今回のイベントでは、このような方針を区民の皆さんに知ってもらうだけでなく、子どもたちの意見を聴く取組も行いました。これからも様々な機会を活用して、より多くの子どもたちの声をしっかりと受け止めながら、これらの計画や条例にも反映していきたいと考えています。

「こども まんなか すみだ」の実現には、地域の皆さんとの連携やつながりの力が、よ

り一層重要です。

今後とも力強く各関連事業を進めていきますので、引き続き区政に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



「みんなであそぼう！こどもわくわくフェスティバル」にて

